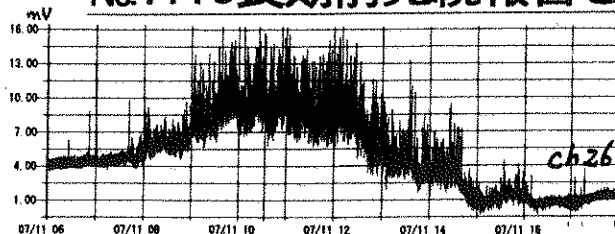
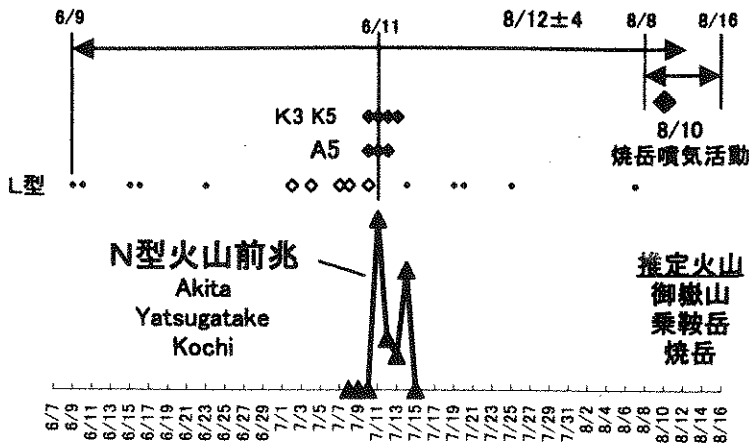


原稿校了後の前兆変化について

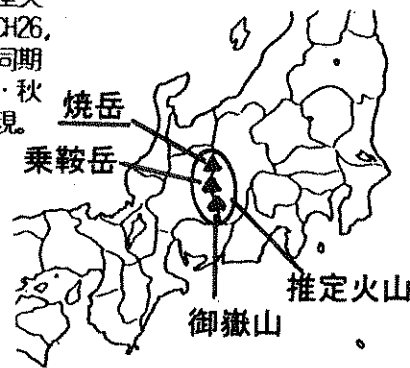
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

参考: 7/11Max 火山前兆「御嶽山・乗鞍岳・焼岳」火山 火山活動活発化or噴火推定→ 8/10 焼岳噴気活動 関連の可能性有

No.1778長期前兆続報含む



上波形:7/11 N型火山前兆。八ヶ岳CH26, 同型変動が時刻同期で、高知観測点・秋田観測点にも出現。



6/9初現~7/11極大で、火山関連活動で良く見られる「初現~極大:極大~活動開始=1:1」

の関係では、8/12±4(誤差はやや大)が計算できます。

気象庁から本日、8/10の午前00時少し前(8/9 23:50~)から午前02時頃にかけて、推定領域内火山である長野県と岐阜県境界の焼岳で空震を伴う地震が6回観測され、山頂から西側約400mの山腹から噴気が約100m程まで上がる状態が観測されたと発表がありました。

本観測では、火山前兆については、ある程度の領域のみ推定可能ですが、活動火山を個別に識別できる訳ではありません。

07月の火山前兆は、推定火山領域がNo1778推定領域内であることから、No1778推定地震活動が火山近傍である可能性や、地震活動に関連して火山活動活発化の可能性等も考えました。

左No1778前兆第24ステージ(現在)に07月の火山前兆を入れました。たまたま第24ステージ中に火山前兆が出現しただけで、直接的にNo1778前兆に関連した火山前兆であるとは断定困難です。

火山前兆からはもう少し大きな活動であっても調和しますが火山前兆は地震前兆の様な経験則が未だ明確ではありません。空震を伴う地震活動と噴気のみが対応活動である可能性もありませんが、今後(8/16±又は8/23±)噴火活動に至る可能性も完全否定は困難です。8/7にL型が観測されている点気がなり、本格活動はまだ先の可能性も否定困難。8/26程度迄により活発な活動が無い場合は、今回の活動が対応活動と認識されます。

07月の火山前兆が焼岳火山活動活発化が対応活動の場合は、No1778推定領域が御嶽山~焼岳周辺領域が考え易いと云う根拠は低くなりますが、No1778前兆には火山近傍を示す前兆も有、御嶽山~焼岳領域と白山周辺領域までの可能性はまだ否定できません。8/7の弱いL型以降、火山前兆は出現しておりません。*No1778前兆は現状9/22±の可能性が考え易い状況で推移中。

No2928(7/12 配信) 観測情報~波形を掲載して報告致しました。秋田・八ヶ岳南麓・高知の全観測点同期出現のN型火山前兆は、7/11が大きく、7/12,13は微小、7/14は再び明確に複数日に渡って出現致しました。

顕著に副数日N型火山前兆が出現した場合は、微小噴火・水蒸気噴火も含め、火山活動が噴火活動に至る過去例が認められています。

今回7月に観測されたN型は、過去の噴火に至ったN型前兆と比較すると変動値は弱いですが、複数日出現の経緯から最大活動の場合は噴火活動に至る可能性も否定できないことを報告。また検知観測装置と影響局、過去例から、推定される火山は本州中部領域の可能性、特に「御嶽山・乗鞍岳・焼岳」の3火山領域の可能性が考えやすいことを報告致しました。

顕著なN型火山前兆の他、火山活動前兆と相関のある弱いL型前兆が上グラフのとおり、6/9から断続的に出現しています。

Stage-24が示す早い場合の可能性 = 9/22±

